

事例研究

退院困難な老人患者の在宅ケアへの可能性の検討

川島 和代・天津 栄子

(内灘温泉病院)

A Study on Possibility of Home care with the Aged
who cannot be cared at home

Kazuyo Kawashima, Eiko Amatsu
Uchinada Onsen Hospital

要 旨

退院困難な老人患者の在宅ケアが可能となる要因を抽出するために自宅へ退院した2事例の検討を行った。その結果をもとに仮説的に新たな2事例にかかわり在宅ケアが可能となった。4事例の看護プロセスより以下の結論を得た

1. 老人患者の在宅ケアを可能とするためには、患者の病状の安定やADLの向上、心の自立度の回復など患者が自分の人生を前向きに生きていく認識をつくり出せるよう看護者が意図的にかかわる。
2. 老人患者を受け入れようとする家族の前向きな認識を引き出すために、家族の思いに近づく取り組みを重ねながら、患者の良い変化の事実を提示していく。
3. 老人患者に退院をすすめる在宅ケアを可能とするためには、良いケアを介して、患者、家族、看護者三者間の信頼関係（相互浸透）を形成する一定の蓄積期間が必要である。